

平成22年3月8日

各位

会社名 シーシーエス株式会社
 代表者名 代表執行役社長 米田賢治
 (JASDAQ・コード6669)
 問合せ先
 役職 経理財務グループマネージャー
 氏名 梶原慶枝
 電話 075-415-8280

早期退職優遇制度実施に伴う特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年9月14日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。また、下記のとおり特別損失が発生いたしますのであわせてお知らせします。

記

1. 業績予想の修正

(単位：百万円)

平成22年7月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成21年8月1日～平成22年1月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	2,190	△450	△485	△300	△15,006.00
今回発表予想(B)	1,951	△423	△450	△397	△19,857.94
増減額(B-A)	△239	27	35	△97	—
増減率(%)	△10.9%	—	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績(平成21年7月期第2四半期)	1,984	△172	△141	△87	△4,285.69

平成22年7月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年8月1日～平成22年7月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	5,550	125	50	130	6,502.60
今回発表予想(B)	4,480	△440	△520	△560	△28,011.20
増減額(B-A)	△1,070	△565	△570	△690	—
増減率(%)	△19.3%	—	—	—	—
(ご参考)前期実績(平成21年7月期)	3,608	△915	△950	△784	△38,902.91

平成22年7月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正（平成21年8月1日～平成22年1月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たり当期純利益
前回発表予想 (A)	1,700	△230	△240	△245	△12,254.90
今回発表予想 (B)	1,629	△143	△144	△183	△9,153.66
増減額(B-A)	△71	87	96	62	—
増減率(%)	△4.2%	—	—	—	—
(ご参考) 前期第2 四半期実績 (平成21年 7月期第2四半期)	1,844	△141	△164	△100	△4,934.56

平成22年7月期通期個別業績予想数値の修正（平成21年8月1日～平成22年7月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たり当期純利益
前回発表予想 (A)	4,130	165	145	140	7,002.80
今回発表予想 (B)	3,650	10	1	△120	△6,002.40
増減額(B-A)	△480	△155	△144	△260	—
増減率(%)	△11.6%	△93.9%	△99.3%	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成21年7月期)	3,094	△577	△583	△633	△31,430.03

修正の理由

(第2四半期累計期間業績予想の修正理由)

第2四半期累計期間における当社グループの業績は、売上高につきましては、LED照明事業のマシンビジョン分野において、景気の回復基調の影響を受けて、主力販売先である電子・半導体業界を中心に受注状況は当初予想どおり推移し、国内1,136百万円、海外611百万円となる見込みであります。新規分野は、販路の拡大が予定どおり進まず、売上高78百万円となる見込みであります。よってLED照明事業では、1,826百万円（当初予想1,965百万円）となる見込みであります。

野菜事業は、個人消費の低迷や露地野菜との価格競争の影響から、取扱店舗数及び販売数量は増加傾向にあるものの、当初予想しておりました販売数量に至らず、売上高93百万円（当初予想150百万円）となる見込みであります。

その他の事業は、レストラン・カフェ事業において一時休業した影響、植物育成プラント事業において、引き合いはあるものの受注獲得に至らず、売上高31百万円（当初予想75百万円）となる見込みであります。

一方、販売管理費につきましては、役員報酬の減額や管理職手当の減額等の人件費の削減、研究開発費は優先順位の高いテーマに集中することによる抑制、事務効率化による経費削減に努めたことから、営業損失及び経常損失は当初予想より改善される見込みであります。

また、連結子会社の少数株主持分を超える欠損に対する負担金については、当初予想策定時は持分割合に応じて策定しておりましたが、連結財務諸表原則に則り、親会社である当社がすべて負担することといたしました。

この結果、売上高は1,951百万円（当初予想2,190百万円）、営業損失423百万円（当初予想 営業損失450百万円）、経常損失450百万円（当初予想 経常損失485百万円）、四半期純損失397百万円（当初予想 四半期純損失300百万円）に修正いたします。

(通期業績予想の修正理由)

通期における当社グループの業績は、LED照明事業のマシンビジョン分野において、受注状況は回復基調にあるものの、今後の景気に対する先行きの不透明感は完全に拭い去れておらず、企業の収益環境は依然として厳しい状況が続くと予想され、設備投資計画の本格的な回復にはまだ時間が掛かるものと予想しております。

これにより、国内売上高は当初予想より10百万円減少の2,490百万円（当初予想2,500百万円）、海外売上高は当初予想より105百万円減少の1,355百万円（当初予想1,460百万円）となり、概ね当初予想どおり推移すると見込んでおります。

新規分野は、売上高は当初予想より460百万円減少の240百万円（当初予想700百万円）となる見込みであります。また、販路の拡大及び業務提携にも引き続き取り組んでまいります。

野菜事業は、引き続き取扱店舗数の拡大に努めるとともに、新たな販売チャネルの構築に取り組んでまいります。また、売上高は当初予想より250百万円減少の320百万円（当初予想570百万円）となり当初予想を下回る見込みであります。

その他の事業は、レストラン・カフェ事業において、一時休業の影響を受けており、植物育成プラント事業においては、海外案件を含め複数の商談が進んでいるものの売上時期が翌期にずれこむこともあり、売上高は当初予想より245百万円減少の75百万円（当初予想320百万円）となる見込みであります。

費用につきましては、引き続き経費の削減にグループを挙げて取り組んでまいります。また、「2. 特別損失の発生」に記載のとおり、当社は、事業運営の効率化及び収益体質の強化を目指して早期退職優遇制度を実施することになりましたので、特別損失として約100百万円を計上しております。また、連結子会社の少数株主持分を超える欠損に対する負担金を親会社である当社が負担しております。

この結果、通期の業績予想は、売上高4,480百万円（当初予想5,550百万円）、営業損失440百万円（当初予想営業利益125百万円）、経常損失520百万円（当初予想 経常利益50百万円）、当期純損失560百万円（当初予想当期純利益130百万円）に修正いたします。

2. 特別損失の発生

(1) 早期退職優遇制度の実施

事業運営の効率化及び収益体質の強化を目的として、早期退職優遇制度を実施することを決定いたしました。

(2) 早期退職優遇制度の内容

- ① 想定人員 30名程度
- ② 対象者 正社員
- ③ 募集期間 平成22年3月8日から平成22年3月19日
- ④ 退職日 平成22年3月31日
- ⑤ 優遇措置 通常の退職金のほか退職特別加算金を支給します。
希望者に対しては再就職支援を実施します。

以 上

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。